帯広畜産大学同窓会報

第３号　平成８年９月　帯広市稲田町西２　帯広畜産大学内　帯広畜産大学同窓会事務局発行

第３号に寄せて

会長　岸上正治（S18獣医卒）

会員の皆様方には，日々ご健勝の上，ご活躍のことと お慶び申し上げます。

さて，昨秋10月の定期総会には遠路ブラジル支部の渋谷昭市氏をはじめ，多数のご参加を得まして有り難うございました。総会の席で平成７年10月から平成９年９月までの新役員の選出が行われました。ほぼ留任で会計の石橋憲一が新設された庶務に回り，石橋の後任に松岡栄が就任いたしました。新役員は次の如くです。

会長　岸上正治（獣医S18）；　副会長　安田勲（総農S31），佐藤邦忠（獣医S37）；事務局長　山田純三（獣医S39）；　名簿編集委員長　三上正幸（酪農S40）；庶務　石橋憲一（農化S42）；　会計　松田清明（総農S41），松岡栄（酪農S41）；監事　鞆川琢夫（獣医S22），有賀秀子（酪農S31）

会則が現状に合わない点がありましたので，会則の改正を提案し，ご承認いただきました。新会則は本報の７～８頁に掲載いたしますのでご参照下さい。その総会でいただきました貴重な建設的なご意見に基づき，各種の課題解決に向けて，本年５月18日の代議員会において決定されました事項につき，その概要をご報告いたし，皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

１）経済基盤の確立のために新入生から協賛金をいただいておりますが，これが会則に在りませんので，新しく条文を起こし，来年の総会で決定することになりました。その案は次の通りです。第26条　本会の活動を支援していただく目的で，帯広畜産大学に入学される新入生に同窓会協賛金10,000円の納入をお願いする。この協賛金は卒業あるいは修了時に自動的に終身会費に切り替わるものとする。但し，何らかの事情で中途退学されたときには，本人からの請求があれば返金するものとする。

この協賛金により財政基盤が確立されつつあります。

２）役員報酬を支出すべきとの総会での指摘により，役員報酬は，一律一万円を支給することとなりました。

３）名簿は，その内容の改善が評価されましたが，内容の更なる充実と精度および利用価値を高める努力が確認されました。これには皆様のご協力が必須でございますので宜しくご協力をお願いします。広告の掲載が昨年号から開始されましたので，皆様のなお一層のご協力をお願いいたします。

４）本会の組織強化を計るための支部結成の促進につ いてですが，現在，19の支部が結成され，活発な地域活動が展開されておりますことは，ご同慶に耐えません。まだ支部が結成されていない地域での支部結成を宜しくお願いいたします。

以上の他，開学60周年記念事業，在学生への支援事業等が討論され，今後の検討事項といたしました。

母校の現状につきましては，後述されます学長先生や各学科長からの報告が在りますが，主な出来事は，本年２月末日，坂村学長がご退官になり，三月より新学長として久保嘉治新学長が就任され，本学の更なる発展のためにご尽力賜ることになりました。地域産業と大学とを結ぶ「地域共同研究センター」が設置され，地域に開かれた大学として大学の更なる発展が期待されます。

母校も年々変化し充実しているようで，同慶のいたりです。会員各位には，同窓会へ一層のご支援を賜りますようお願いいたしますと共に，益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。（平成８年８月記）

変わりつつある駒翠の学園

学長　久保嘉治

同窓生の皆様には，ご健勝にてお過ごしのことと，お慶び申し上げます。私は，去る３月１日付けで，学長に就任いたしました。もとより微力ではありますが，大学構成員の力の結集を図り，最善をつくして大学発展に邁進致す所存であります。何卒倍旧のご交誼ご鞭撻をお願いいたします。

ここで早速近況をお伝えします。平成８年度予算で，大学のサービス機能を担う地域共同研究センターの設置が認められ，専任助教授１名と客員教授３名が増員となりました。美濃羊輔教授が初代センター長に就任され，４名の客員教授を迎えて，順調に研究事業を開始しました。博士課程の教育では，本学の参加で拡充した連合農学研究科が完成年度を迎え，本年度末に課程博士を送り出す段取りになりました。８年目に入る連合獣医学研究科と共に，高度な自立的かつ専門的な職業人の育成に着々と実績を積み上げています。

平成８年度の入学者は，学部267（内女子139）名，別科30（同４）名，修士課程58（同25）名であり，在学生全体は，学部1,230（内女子585）名，別科59（同９）名，修士108（同35）名，連大獣医学博士18（同７）名，連大農学博士34（同15）名となっています。このうち外国人留学生は38（同７）名であります。女子学生の進出が著しく，キャンパスが華やいだ感じがします。

去る７月12～15日に，第43回北海道地区大学体育大会が42大学より約５千名の選手の参加を得て，本学が当番校となって実施されました。幸いにして台風がそれて，13～14日は晴天に恵まれ，ごく一部の競技の決勝戦を除いて円滑に終了する事が出来ました。本学の成績は，準優勝２種目（女子のソフトテニス・剣道），３位３種目（女子バレー，男子ソフトテニス・柔道）で，女性軍が大変健闘しました。ソフトテニスやバレー，野球を応援・観戦して回りまして，女子学生が多くなったせいでしょうか，学生同士の声援が「レッツ ゴー チックダイ」とソフトになっていて，野生味を帯びた「レッツ ゴー チ・ク・ダ・イ」ではないことに気づきました。冷夏の中での熱戦からも，大学の変化を実感した次第であります。

現在大学では，教養課程を廃止して，教官は共通講座（人間環境）と既設の専門講座に分属してもらい，すべての教官が修士レベル以上の専門教育に参画する組織に改組を図る予定であります。この改組は，自然科学と人間科学の融合という，時代の流れに添うものであります。本学の教職員一同は，この流れのエネルギーを受け入れ，明日の大学を拓くべく精進しております。同窓生の皆さんに，近況と変化の一端をお知らせし，末永くご支援を下さるようお願い申し上げ，ご挨拶と致します。

☆ 学科などの近況 ☆

▽▽▽ 獣医学科 ▽▽▽

学科長　品川森一

獣医学科は今年も若干の人の動きがありました。今年は獣医学科を退官された先生はいらっしゃいませんでした。しかし残念なことですがお二人の先生，外科の阿部助手が昨年末に，また内科の納助手が３月に大学を去られました。お二人の新たな分野でのご健闘をお祈りします。７月１日付けで内科の助教授として山口大学から宇塚雄次先生が，また外科の助手の後任として山岸則夫先生が岐阜大学大学院連合獣医学研究科（岩手大学）を中退されて着任されました。本学の獣医臨床は大動物を主体として研究教育が行われて来ましたが，お二人の先生が加わり，小動物の方にも分野が広がりつつあります。

解剖の教授で本会事務局長の山田純三先生はこの四月から学生部長となられ，学長と息の合った大学運営に忙しい毎日です。家畜微生物学教室の助手，太田千佳子先生は７月から一年間の内地留学で三島の遺伝学研究所の方で研究を始めておられます。新しい学問領域を取り入れて帰学されるのが楽しみです。

私，昨年，前任の後藤名誉教授の残任期間一年の学科長を引受けましたのですが，今年さらに引き続き２年間学科長を引受ける羽目になりました。よろしくお願いいたします。個人的なことになりますが，今年は英国で牛海綿状脳症疾と人の海綿状脳症，CJD（クロイツフェルド・ヤコブ病）との関連が取りざたされて以来，世界中がこの騒ぎにまきこまれました。私共の獣医公衆衛生学教室ではスクレイピーの研究を行っている関係から，研究室も私個人も，忙しさ倍増となっております。これで何らかの形で帯広畜産大学に貢献できればと頑張っております。

昨年来，獣医学科の自己点検評価の一端として，過去十年間の研究業績を主体とした「帯広畜産大学　獣医学教育・研究活動·1995·」を刊行しました。同窓会支部にお送りいたしましたので，忌憚のないご批判と叱咤勉励お願いいたします。

ppp 畜産管理学科 ppp

学科長　佐々木市夫

農村調査のために，私はよく道内の役場や農協を訪ねます。そこで，一応調査の話が一段落すると，相手は少し表情をゆるめて，「実は畜大の卒業生なんです。」と自己紹介するケースに時々出会います。もちろん，私は道内の農業の現場で多くの卒業生が指導的役割を担って活躍をされています事は聞いておりますが，実際こんなケースに会うと出身学科がどこであろうと，なごんだ気分になるものです。教師としてやはり嬉しく，ある種の連帯感のようなものを抱くのは私ひとりだけでしょうか。「そうですか，で，どこの研究室？」と聞いたり，また「最近，女子学生が増えて，学内の雰囲気が変わったでしょうね。」と言われたりして，会話がはずむものです。そしてその場を後にして，改めて，教育機関としての畜大の重要な役割を自覚します。

さて，平成８年３月に，私ども畜産管理学科は64名の卒業生を新たに社会に送り出しました。進学や自営を除いて，就職先をみると，農業団体（非営利団体を含む）が11名ともっとも多く，続いて，食料品等の製造業８名，農業６名，公務員４名などとなっております。教官一同，りっぱに変身した卒業生にまたいつか会えることを楽しみに，彼らの巣立ちを見送った次第です。

ところで，見送る側の教官についてですが，この３月に停年退官を迎えられた先生は本学科にはおりませんでした。ただ，畜産経営情報学講座の久保嘉治教授が，新学長に就任されたことは，大きなニュースです。久保先生は，これまで長い間所属されていた本学科を離れ，学長業務に専念することになりました。なお，家畜生産管理学講座の高橋潤一助教授はオーストラリアから，また畜産経営情報学講座の山本康貴講師はニュージーランドから帰国し，現在，私ども教育研究陣に復帰しております。

いうまでもなく，私ども教育研究陣は，21世紀に通用する豊かな感性と専門知識を備えた卒業生を世に送り続けるべく，努力しております。引き続き卒業生の皆さんからのご指導，ご協力を賜りたいと思います。

AAA 畜産環境科学科 AAA

学科長　嶋田　徹

畜産環境，草地，農業工学の旧３学科が一つになり，畜産環境科学科が誕生して，早くも６年が経過しました。この３月に送りだしたマスター修了生が，新学科最初の学生諸君ということになります。したがって，学科改組やそれに伴う新カリキュラムの実施により学科がどのように変わったか，そろそろご報告しなければならない時期になっています。しかし，実際のところつぎつぎと生じる諸問題に対処するのが精いっぱいというのが実状で，このことが報告できるまでには，さらに何年かが必要のようです。また現在も，教養課程を廃止する組織改革案とそれに伴う新新カリキュラムが学内で検討されており，認められれば来春からそれが実施されることになっています。ことほど左様に大学は現在改革のまっただなかにあり，新しい状況に向けて急激に変化を遂げております。しかし反面，先の組織改組で誕生した新講座の名前もよく覚え切れないでいる私のような老年教官にとっては，なかなか大変なご時世で，30余名の学生諸君を相手にのんびりやっていた旧学科時代を思い出しては，懐かしんでいる次第です。

平成８年度の教官人事では，草地学講座の岡本明治先生が教授に，土地資源利用学講座の辻修先生が助教授になられました。また，共用室の西本益子事務官には今春めでたく定年により退官されました。

同窓生の皆様には，どうかこのように変わりゆく大学をそのままにお立ち寄り下さい。研究室やその構成員は幸いひ以前と変わらずに温存（？）されておりますので，決して戸惑うことは無いと思います。

ccc 生物資源化学科 ccc　　学科長　佐藤哲也

農産化学科の時代から33年間勤めあげられ，改組後初代の生物資源化学科学科主任の重責を果たされた奥山寛先生がこの3月に停年退官されました。その後任として，生物有機化学研究室（旧林産化学）の鍋田憲助先生が昨年8月，教授に，また，田崎弘之先生が本年4月，助教授に昇任されました。また，生物機能開発学（旧農産物利用，応用生物化学）大和田琢二先生が10カ月のアメリカ留学（テネシー大学）を終えられ，昨年末に帰学されました。本年8月から増田宏志先生が教授に昇任されました。また，生物機能化学（旧食品化学）の伊藤精亮教授が本年3月に図書館長に選出されました。この他の研究室の体制は昨年と変わりありません。今年2月，農産化学棟の南側，環境科学棟の東側に着工された新校舎は6階建ての外観がほぼ出来上がりました。12月半ばに移転の運びとなります。その直後農産化学棟は取り壊されますのでその周辺の環境は大きく様変わりすることになります。新校舎の特徴は，学科の共同利用施設のスペースが十分とれたことです。すなわち，構造解析室，遺伝子操作室，培養制御室，物性試験・食品貯蔵実験室がそれぞれ4～5コマ確保できました。その上，最上階にはゆったりした休憩室もつくられ，より効率的に，より快適に教育研究が行なわれることになるでしょう。

さて，学科の学生についてみてみますと，男女半々という構成比は，ほぼ定着した感があります。ですから，年によって，女子学生の比率が大きい研究室も出てくることも珍しくありません。これも時代の流れなのですね。ご存知のように，本学科は従来とも進学率が高かったのですが，就職戦線超氷河期といわれる昨今，ますますこの傾向が高まりました。博士課程（岩手連合大学院）8名，修士課程は，2年目が11人，1年目が20人という大所帯になりました。こうしたことは研究室の活性化につながっていますが，その反面，卒業生，修了生の進路が必ずしも明るくないという事実も否めません。この点，同窓生の皆様のご配慮とご支援をお願い致します。

LLL 教養課程 LLL（大学改革，教養改組，複雑な心中）

教養課程主任　川端　喬

国際化，効率化，高度化，多元化，情報化，少子化など色々言われる世の中の現象に大学はアップアップしています。大学はこの説明語を受けとめて改革をしなければその使命が果たせないと恐怖しているようです。形の上では，教養課程を廃止することです。すなわち，国際化，効率化，高度化，多元化，情報化，少子化に対応するのに，これまでの人文科目，社会科目，自然科目，外国語科目，体育科目を制度として大学の前期教育に行うことの意味が問われているのです。

専門教育は，国際化，効率化，高度化，多元化，情報化，少子化の問題をその専門性を高め，細分化し，高度化して研究規模を拡大して行くことでその求められる機能を果たせるようで，金と時間だけが問題のようです。正に，農業の推移と似たものがあります。

農業に従事する人は，1960年は，総就業人口の26.8%ありましたが，1992年には5.5%まで減少し，耕地面積は20%も減少しています。でも，品種改良，栽培技術，化学肥料，農薬，農作業の機械化などで収穫量は米剰りに悩むほどに大幅に伸びたのです。一方で，戦後からの農業保護政策は，農業の国際競争力や生産効率を低下させ輸入価格に対抗できないまま，日本を食糧自給の不可能な国にしてしまいました。いざ，耕地を増やして何か作物を作ろうとしても，もとの農地は宅地に売られて，耕作できる土地も人もほとんどなくなっているのです。

むかし昔，大学に入る目的が教養をつけるためという学生が沢山いたころがありました。今は，受験勉強の仇を取るかのように大学で思いきり遊ぼうと言うことです。大学が人生のために，自己実現のために，そして地球のために，楽しむ有意義な場になっていくのだろうかと，ガタガタと将来を心配しています。

JJJ 別科（草地畜産専修）JJJ　　主任　三上正幸

本年4月より2年間，別科主任を担当することになりました。私は以前に農畜産製造で乳，肉または農産製造を担当したり，別科学生部委員やクラス担任なども行ったことがありました。これらの経験を基にして，この2年間を頑張ってゆこうと思ってます。

さて，別科が出来て今年で37年目となり，平成8年3月までの修了生総数は804名となり，社会の多くの場で活躍していることは大変嬉しいかぎりです。今年の入学者は30名と，一時減少した時もありましたが，順調な数となっています。しかしながら，これから18歳人口の減少に伴い，入学者数の減少が懸念されますので魅力ある別科にする必要があります。今当面の問題点はカリキュラムの改正です。前任者の谷口主任の時代に，大学の教官に対して行ったアンケートを基にして，カリキュラムを検討し，時代に即した内容にすること です。別科の教育体制は，制度上に制限のあることが幸いところで，理想と現実の間で何とか良いものができるように検討中で，来年度からの実施予定です。

別科の目的は農業後継者の育成です。この20年間の入学者数を見ますと，地元十勝の出身者は約6割を占めており，また，4～5割が農業高等学校出身者です。しかし，入学者の9割近くは農家の子弟で，別科修了生の子弟（2世）も最近は時々見られ，長い歴史の一旦を垣間みることが出来ます。また，最近の修了生の動向を見ますと，やはり就農者が多いですが，就職するものも4～9名おり，このうちの数人は，就農前に一度社会に出て経験を積んでから家を継ぐ者もおります。

現在の教育体制は，ほとんどが学部の教官に頼っておりますが，助手の熊瀬 登先生が実際的に全ての学生の面倒を見ていると言っても過言ではないです。その他に農場の池滝 孝先生，大谷 昌之先生，また，2年生のクラス担任である獣医学科の田口 清先生，1年生の担任である畜産環境科学科の柳川 久先生も別科学生のお世話をしております。これからの日本の農業を実際に担う学生が，この2年間で，実際の営農に役立つ知識を少しでも多く学んで欲しいと思います。

◇ 各支部の近況 ◇

【ブラジル支部】

事務局　藤田宗昭・めぐみ（旧姓堀）（S62 草地卒）

去る7月6日，今年も恒例の在ブラジル帯広畜産大学

同窓会が，サンパウロ市郊外の青山明政（S46 酪農卒）農場にて開催されました。会場は毎年，会員所有の農場等を持ち回りで変わるためで，日本の23倍もの国土の広がりがあるにも拘わらず家族同伴の旅行を兼ねて，北はカリブ海の近くから，南は南極大陸の近くから三々五々と集まってきます。今年は会員20人中12人，その家族を含めて合計33人の参加と例年より少なかったのですが，上は浅井 澄（S23 獣医卒）を筆頭にそうそうたる者で，大いに飲み且つ語り，夕刻，火がともされた暖炉を前にして声高らかに道遥歌と寮歌を吟じ，幕を閉じました。

この集まりは元学長の西川義正先生のブラジル訪問を機に組織化されたもので，今年で19回を数えるに至りました。最近は，日本の経済力の増大に伴い以前のような農業移住者は来なくなり，その代わりに食料関連会社の駐在員としての会員数が増加するようになりました。異国の大空と大地に夢を託す気概がまだ健在なり，と思えます。中国をはじめ食料輸出国であったアジアの諸国が次々に食料輸入国になりつつある現在，地球規模の食料分配に関心が高まることは必至です。未開発の大地を抱え，世界最大の日系社会のあるブラジルに帯広畜産大学の同窓生が根を下ろして頑張っていることを記憶に留めていただきたいと思います。

末筆になりましたが，同窓生の皆さんおよび各支部の皆さんの益々のご発展とご健勝を心よりお祈り致します。

連絡先　Mr. & Ms. M. Fujita, C.P. 259 Campo Grande-M.S. CEP 79002-970, BRAZIL

【青森県支部】　会長　諏訪内博之（獣医S20）

梅雨明け宣言がでた7月26日の青森県は，うだるような暑さとなり，青森，八戸などほぼ全域で今夏の最高気温を更新しました。これから1ヶ月間の県内は，平均気温，降水量，日照時間とも平年並みの可能性が大きい見込みとのことです。

平成7年度の同窓会は，11月18日に青森市で開催され約25名ほどの出席で毎年盛大に行われております。現在県内で獣医科医院を開業している方は2名で，堀内浩氏は昭和25年獣医科卒，青森県青森家保を退職後，郷里の南津軽郡浪岡町を中心に青森市ほか，津軽一円を対象に乳牛，肉牛，豚，犬，猫の診療に大活躍しております。また，越智隆幸氏（獣医S32）は，上北郡六ヶ所村，庄内酪農協，千戈家畜診療所を退職後，上北郡野辺地町を中心に，上北，下北郡を対象に主として乳牛，肉牛，豚の診療に大活躍しております。

昨年の青森県畜産会主催の畜産農家業績発表会に特別講師として高野信雄氏が来青されました。実は，高野氏は，昭和24年酪農科卒で農水省草地試験場に勤務され，現在は栃木県西那須野町で酪農肉牛塾を経営され，畜産農家の指導に大活躍されておられるとの事，講演終了後，高野講師を囲んで，私と堀内氏，後藤直司氏（獣医S31）と4名で一杯酒を飲みながら帯広畜産大学時代の昔話に花をさかせ，一夜を飲みあかしました。

高野講師が帯広畜大の卒業生とは全くわからず，偶然同窓生が一同に集った事は何かの縁と思われました。

まとまりのない事を書きましたが，同窓の皆様のご健康と益々のご隆盛を心からお祈りいたします。

（平成8年7月末日記）

【秋田県支部】　会長　月澤雄一（獣医S18）

日頃のご活動を通して，母校同窓会の益々の発展に努力されていること，誠にご苦労様です。平成6年6月に秋田県支部を結成してから早2年が過ぎました。それまでは「帯広畜産大学秋田県同窓会」の名称で，同窓の絆を酒で固める為の恒例行事をほとんど毎年のように開催しておりました。

昭和30年頃からだったと思いますが，男鹿半島の鯛の季節に合わせて，海岸の旅館で出席率100％で開催されてきましたが，最近は海の幸に飽きられたかとも思い，県南部の奥羽山中の温泉を使ったこともありますが，やはり大所帯（現在50名）になりますと出席率も悪くなり，支部長の不徳の致すところと反省しております。

盛んな時は隣の青森県と合同の同窓会を開いたこともありましたが，少人数古き良き時代を懐かしむだけでは芸がないので，大所帯に応じた新しい展開が必要ではないかと思案している所です。

しかし，なんと言っても母校が発展を続け，同窓会がそれにそう形で強化され活発に活動していることはご同慶のいたりであります。各県の支部会（旧同窓会）を新しい力でリードして下さることを心から期待していますので，今後ともよろしくお願いいたします。

私たち旧同窓会が常宿として来ました男鹿門前港の「磯の屋」は網元でもあり，民宿に似た雰囲気で，ビックリするような魚介の盛り付けで歓待してくれます。先日，磯の屋の直ぐ上にある男鹿の鬼「なまはげ」が一夜にして積み上げた99段の石段を上ったり，昔の修験道と言われる山々を登る「お山駈け」に参加してみました。大変厳しかったのですが，古代の日本海文化の遺跡なども多く，酒を酌み交わすだけでなく，次の機会には男鹿の勉強会の支部会にしたいものと今から考えております。

【宮城県支部】　支部長　安部　優（獣医S31）

最近の「くそ暑さ」は95年夏に比較してもきつい暑さがあります。湿度が70％以上で，摂氏32度以上ありますと，屋内で立位作業の多い私の場合まことに「ギッチラ」です。しているゴム手袋が破れて水が入ったかと思う程に汗が溜まり手がふやけているのが分かります。勿論の事ながら，着ている半袖の白衣は首の周りから胴回り，その下まで汗でビッショリです。そんな烈悪な条件でも私は頑張っています。私はいま，週3日の非常勤の屠体内臓検査業務に従事しています。この他に，乳牛・豚（繁殖・肥育）・採卵鶏の各農場の巡回指導と防疫諸業務に月間2～5日位就務するのが，現在の私の状況です。

今年の宮城県は，リアス式海岸を持つ県の宿命（？）で隣県は高温でも当県は摂氏25度以下のヤマセに見舞われていまして，稲を始めとする経営植栽物が3～5日間遅れの発育不良でしたが，7月中旬過ぎての暑さでようやく回復しつつあるようです。今冬の多雪のお陰で幸いにも水不足の心配はなさそうです。北海道はいかがでしょうか？聞いた話では作柄はよくないとか聞きました。

宮城県支部は昭和19年に生まれている筈でしたが，未手続きの侭に年月を過ごしたことから，昨年になってようやく未加入と気づいた有様で，誠にお恥ずかしい限りです。当支部の構成状況をお知らせします。

帯広獣医畜産専門学校獣医畜産科卒業3名，帯広農業

専門学校農学科卒業１名，帯広畜産大学畜産学部獣医学科卒業18名，同6年制卒業７名，酪農学科卒業12名，家畜生産学科卒業８名，農産化学科卒業９名，農業工学科卒業５名，草地学科卒業８名，畜産経営学科卒業３名，畜産環境学科卒業７名，畜産管理学科卒業３名，草地畜産専修科修了３名の，計87名です。（判明分）

宮城県は，東北の中でも四季の流れが明瞭であると言われています。そうした大自然に抱かれるごとく，皆が晴ればれとして手を携えながらそれぞれに活動しています。秋から春にかけての期間内に当会の総会を持つことが多く，農村の閑な時期を選んでする関わりから，ここに集まった会員の声が宮城県内に跳ね返っていっていると思っています。（チトでか過ぎた！）

寄れば話だけになり，当世流行のカラオケは誰も見向きません。マジメなんでしょうネ。お互いが情報交換をし合い，そして終わりには必ず「碧雲寮々歌」「帯広畜産大学道遥歌」ほか数曲を肩ぐるまを組んで，老いも若きも涙を流しながら歌い終わってから，「ジャ！またな！」と言って解散していきます。「蛍の光」以上のペーソスがそこには生まれます。今年度の総会は11月に名湯・鳴子温泉一泊で開催される予定であり，通知が届くのを待っていることでしょう。ではまた，次の機会まで。

（平成８年７月30日記）

【関東同窓会（畜大同窓生の皆様へ）】

幹事長　各務敏彦（酪農S35）

東京は7月中旬から気温が急に上昇し，連日35度を記録しておりましたが，このところ戻り梅雨のように慈雨と涼しさで元気を回復したところです。オリムピックも連日の報道で湧いておりますが，私どもに特に関心があるのは食中毒「O-157」でしょうか，関係の諸氏には夏休みもなく大変な問題だと思っております。亡くなられた方々の御冥福をお祈りすると共に早期解決を願う次第です。

さて，関東同窓会では恒例の総会を３月30日（土）九段のホテルエドモントで開催しました。亀谷勉会長（獣医S25）他約60名が出席し大学からは新学長に就任された久保嘉治先生，学生部長の山田純三先生，佐藤邦忠先生，田代真先生が来賓として御出席くださいました。総会は事業報告，会計報告，監査報告並びに事業計画，予算等の報告の後，新役員の承認が行われ，常任幹事に野川浩氏（獣医S36），近藤卓夫氏（獣医S39）を新任し，役員は全員が留任しました。懇親会では永江巌副会長（農化S23）がプレゼンテーションを行い「次世代には出来るだけ苦言を与え厳しい目で立ち向かうべき。」と辛口の発言をされました。久保学長は「現在置かれている大学運営面での厳しさを真摯に受け止め，時代に即応した特徴ある大学に」と挨拶されました。乾杯の後は先輩，後輩が楽しく歓談し旧交を暖め尽きるところ無く続きましたが，恒例の寮歌は全員が肩を組んで歌い母校や学生時代を懐かしみました。

当日は丁度東京都獣医師会役員選挙があり，副会長に辻弘一氏（獣医S34）が選出されましたが，総会に駆けつけ一同盛り上がった次第です。参加者一同の声としては来年はさらに若い層と婦人の参加を増やすよう努力しようとのことでした。

最後に盛夏の候，学生はじめ諸先生，そして皆様の益々の御健康と御多幸を関東同窓会一同と共に心からお祈りする次第です。（平成８年７月25日記）

【兵庫県支部】　事務局　長谷川隆一（獣医S53）

去る７月26日に平成８年度の総会を開催しました。当日出席者は23名と少なかったものの，復興したビヤホールで楽しく懇親を行い，特に出席いただいた大杉栄一先生と藤野安彦先生のお二人とも益々お元気で，昔話で大いに盛り上がりました。

今後も，定期的に同窓会を開催していきたいと考えておりますので，兵庫県に住所や勤務先が変わられた方は，事務局にご連絡をお願いします。

兵庫県の大震災の復興状況をお知らせします。交通は，フェリーなどの海上交通や鉄道はほぼ震災前の状況に復興しており，倒壊し皆様に強烈な印象を与えた阪神高速道路も９月には完全復興する状況になっております。全半壊した家屋もほぼ撤去され，区画整理地域を除き新しい家が次々に建設されております。

被害のあった同窓生からも「建て替えが済み，引っ越しを予定しています」との嬉しい情報が寄せられています。ただ，仮設住宅は４万戸近くに及び高齢者が多いことから，全てが解消するのは何時の日になることかと心配しております。

人の噂も75日の例えの通り，大震災の話もオーム真理教やO-157による食中毒の話題に消えそうですが，「がんばろう神戸」を合い言葉に頑張っておりますので，機会があれば復興した神戸を見ていただき，「がんばれ」と一言声をかけてやって下さい。

最後になりましたが，今までに頂きました皆様の温かい励まに対し心から御礼申し上げます。

（平成８年８月２日記）

【鳥取県支部】　支部長　朽木廣（獣医S23）

平成６年発足しましたが，平成７年度総会のとき，少人数なので出来ることは何でもしようということになりました。

第120回日本獣医学会時の同窓会　平成７年11月10日鳥取市の県民文化会館での学会に出席された畜大の先生方と島根，鳥取両県の同窓生が集って情報交換と懇談の場を持ちました。忙しいなかご出席頂きました品川獣医学科長，豊田，更科，山田，長沢，宮原先生およびエーザイの田中先生（獣医S41）に厚くお礼申し上げます。

島根，鳥取合同同窓会　平成８年２月17日玉湯町長新宮（旧姓加藤）安雄氏（酪農S35）のお世話で玉造温泉「千代の湯」で12名が出席し親睦を深めました。平成の国引きといわれている「中海干拓」や牧場経営の難しさが指摘されました。秋には鳥取県が幹事役で米子市皆生温泉で開催することが決定しました。

農学博士乗本吉朗氏（獣医S22，副支部長）が「過疎問題の実態と論理」を上梓されました。医療費無料の通知を受け行動や気力が衰え，これが最後の単独出版と後書きがしてありました。ついでに私のこと，趣味で陶芸をやっていますが金陶展に出品した作品が日中交流展に選抜され９月中国の景徳鎮市で展示されます。

（これまで支部会の近況を報告いただいていない支部の